

子どもと一緒に読みたい！子どもの権利に関する絵本

ゆうたはともだち

作：きたやま ようこ／あかね書房



おれ(犬) いぬ。
おまえ(ゆうた) にんげん。
自分と相手の違いを明快な絵と
簡単な文で表現しています。
相手との違いを認め、尊重する
ことが当たり前と思えるような
絵本です。

やだ！

作・絵：ジェズ・オールバラ／徳間書店



水浴びをして遊んでいた
子ザルのジョジョは、もっと
遊んでいたくてママの
言うことを聞きません。
呆れてどこかへ行ってしまう

ママ。そして…。

少しワガママ言ったってママはいつも見守ってくれる。
そんな愛情あふれ、また、どこかで見たことのあるような
光景に思わずニッコリしてしまうのではないのでしょうか。

でんしゃにのって

作・絵：とよた かずひこ／アリス館



うららちゃんは、ひとりで電車で
乗っておばあちゃんの所へ向かい
ます。途中の駅では様々な動物
たちが乗り込んできて…。

譲り合いや、優しさに触れる絵本
です。次はどんな動物かな？とワクワクしながら読み進め
られますよ。

ちいさな きいろい かさ

イラスト：にしまき かやこ、シナリオ：もり ひさし／金の星社



なっちゃんはお母さんに黄色い傘を
買ってもらい、雨が降るのを待ちわ
びています。

雨が降るとなっちゃんは黄色い傘を
さして歩きます。途中、雨に降られ

る動物を次々と傘の中に入れてあげます。

傘もなっちゃんの優しさに答えるかのように、それに合わ
せて大きくなっていくのです。

雨の日に優しい気持ちになれる、そんな絵本です。

となりのためき

作・絵：せな けいこ／鈴木出版



ウサギはタヌキのことが大嫌い
です。大嫌いなタヌキを懲ら
しめるために月と取引をしま
す。

その条件は1か月間タヌキにうんと優しくすること。

ウサギは1か月だけ我慢してタヌキに優しくします。
すると、タヌキのウサギに対する態度が変わってきて…。
誰でも自分に嫌な態度をとる相手は好きになれません
よね。

自分が優しく相手を大切にすると、きっと相手も優しい
気持ちになってくれるのです。

わたし

ぶん：谷川 俊太郎、え：長 新太／福音館書店



「わたし」をわたし以外の人の視点
で表すと…。自分って誰？という
哲学的な問題に^{たいじ}対峙する絵本です。
わたしは一人しかいないけれど、
いろんな呼び方で呼ばれる。

社会の中での自分と他者との関係を理解するのに
役立ちます。

かあさん、わたしのこと好き？

作：バーバラ・ジョシー、絵：バーバラ・ラヴァレー、
訳：わたなべ いちえ／偕成社



北極圏に住む民族イヌイットの女の子がお母さんの反応を確かめるために、何度も私のこと好き？とたずねます。お母さんはその都度、好きだと答えます。

そんな様子に、愛情をもって抱きしめ、大好きだと言葉にすることの大切さを感じさせられます。

イヌイットの文化の中にある、あまり聞きなれない動物の名前や、母子の服装にも目が留まります。

わたしが好き

作・絵：安藤 由紀／岩崎書店



ココは自分が大好きな子猫。だけど自分が嫌いになることも。悲しくて、恥ずかしくて、寂しくなる。そんな時、お母さんは…。

この絵本のテーマは「自己肯定感」

“自分の存在そのものに価値がある” “周りのみんなが自分を愛してくれる”

「自己肯定感」高めることは生きる力につながります。子どもを「だいすきだよ」と抱きしめたい絵本です。

おこだでませんように

作：くすのき しげのり、絵：石井 聖岳／小学館



家でも学校でも、いつも怒られてばかりの「ぼく」。怒られることをするのは訳があるのだけど口にしません。その理由は…？

ほんとは「ええこやねえ」って言われたい「ぼく」が短冊に書いたお願いに涙がこぼれそうになります。

子どもたちの揺れ動く心に寄り添い抱きしめたい、そんな気持ちになる絵本です。

ないた

作：中川 ひろたか、絵：長 新太／金の星社



一日一回は泣く。転んで泣いて、ぶつけて泣いて、けんかして泣いて、叱られて泣いて…。いろんな場面、いろんな理由で涙が出る。

大人は泣かない。ぼくも大人になったら泣かなくなるのかな？

大人にとっては、泣くことで自分の感情を吐き出すことができる子ども時代を羨ましくも思えるお話です。

何で泣くのかな？と子どもと一緒に考えてみるのもいいかもしれません。

みえるとかみえないとか

さく：ヨシタケ シンスケ、そうだん：伊藤 亜紗／アリス館



「ぼく」は宇宙飛行士。宇宙を旅していろんな違いを見つけます。見た目、やること、考え方、違うところはたくさんあるけど…。相手のありのままを受け入れることを考えさせてくれる絵本です。

子どもと一緒に同じところや違うところを探してみるのはいかがでしょうか。

ともだちや

作：内田 麟太郎、絵：降矢 なな／偕成社



キツネは1時間100円、2時間200円で“ともだちや”をすることを思いつきました。200円でクマと友達になったキツネはちょっと辛そう。そんな時声を掛けてきたのは

なんと“オオカミ”。

お代をもらおうとするキツネに言ったオオカミの言葉は最高です。オオカミに友達のあり方を教えられたキツネはとても幸せそう。

子どもたちにもそんな友達を作ってほしいですね。